

頑張ろう大町町



町では、令和3年10月18日に災害対策本部会議から復旧復興連絡会議に移行し、被災者の皆さんの支援を行っています。

ここでは、復旧・復興に向けて頑張っている人を紹介し、被災地区の「^{いま}現在」をお伝えします。



～つながる人の輪～

復興レポート

Disaster Revival

Vol.4

(取材：向山)

復旧・復興に向けて頑張っている人に話を聞きました。

匿名希望

Q. 発災当時の状況を教えてください。

A. 被災当初、父が自宅に1人残っていました。父が自衛隊の救命ボートで救助されました。

当時、家庭内の事情で父1人にしていただけ、家の状況を確認できたのは、被災翌日の水が引いてきた昼頃でした。

はじめは、どこに相談して良いか分からず、町総合福祉保健センター美郷に行って、なにかから手をつけたら良いか相談することからでした。

Q. 現在はどのような生活をされていますか。

A. 現在は、家屋の修理も済み、生活用品も必要最低限揃ったので、2月からは以前の生活に戻ったなと感じています。



▲被害当時の恵比須町

Q. 今後はどうされる予定ですか。

A. 元の生活にやっと戻ったので、転居する予定はありません。もしまた水害が来たら…という思いは当然ありますが、同じ規模の水害が来ることを想定して、行政の対策も含めて、高齢者のみ家庭も多いこの場所です。という対策ができるのか、考える必要があると思います。

水害から半年が経過

全国各地から駆け付けてくれた支援団体の皆さんは少しずつ撤退し、時間の経過とともに被災者の皆さんは前と同じような生活に戻り始めています。

全国各地から寄せられたたくさんの方の支援。大町町の復興は、そんな数多の思いから成り遂げられつつあります。

次号からの復興だよりでは、多くの分野に渡り活躍された支援団体について紹介します。

被災地区の現在・恵比須町

恵比須町は、おまち情報プラザの北側に位置し、大町町域おこし協力隊の活動拠点となっているフリースペース「おまち」がある地区です。令和元年佐賀豪雨災害で被災して以降、被災家屋の取り壊しが進み、そこに新築住宅や賃貸住宅が建築され、また新しい町の光景になりつつあります。

▼住宅建設が進んでいる現在の恵比須町



▲被害当時の恵比須町